

溶連菌感染症と診断されたお子さまの保護者様へ

Ver1.1

・ 溶連菌感染症とは？

- 溶連菌感染症の症状は風邪と似ています。しかし適切に治療しないと心臓や腎臓などに重い続発症（合併症）を起こす事があるという点が風邪と異なります。
- 溶連菌は溶連菌感染症の原因菌で、“細菌”の一種です。“細菌”は風邪の原因の大半である“ウイルス”とは異なる病原体です。細菌はありふれた生物で、溶連菌の他に病気を引き起こす細菌としては、ワクチンで有名になったヒブ菌や肺炎球菌が挙げられ、その他細菌の種類は無数にあります。

・ 溶連菌感染症の治療

- 溶連菌はとくに抗生剤の有効性が高い菌です。抗生剤を内服すると、多くの場合で24時間以内に症状が消失します。
- 溶連菌の抗生剤による治療で大切なのは、治療期間です。症状がよくなったからといって2～3日で抗生物質を飲むのを止めると、高率に再発します。一般的に溶連菌感染症の治療は5～10日間です（抗生剤の種類にもよります）。当院では原則として7日間の治療としています。途中で抗生剤の内服を止めないでください。
- 抗生剤を内服中（内服開始後1週間頃に多いです）に体に発疹が出る場合があります。その場合抗生剤が原因かもしれません。いったん抗生剤の内服を中止し、一番早い当院の外来日に受診してください（発疹がよほどひどくなければ、休日の受診までは必要ありません）。抗生剤を内服してから24時間以内に発疹が出現した場合、溶連菌感染症による発疹の可能性が高いです。抗生剤の内服を続けて、24時間以内に発疹が消えない場合は当院を受診してください。

・ 周囲への感染

- 幼稚園、保育園、学校は出席停止扱いとなります。出席停止期間は医師の指示に従ってください。
- 兄弟に移ることがあります。溶連菌はインフルエンザなどと比べれば感染力は強くはありませんが、菌は唾液にいますので、抗生剤を飲み始めてから2日間はスプーンやコップの共有や、食べ残したものを兄弟に食べさせたりしないようにしてください。潜伏期間は2～10日間とされています。

平成28年4月1日改訂
さかたこどもクリニック